

「第19 こうばひのび」

はじめに

タイトルを仮名だけで読んでみると、何のことかさっぱり分かりません。漢字に直してみて初めて何かこういうことなんやろかと言うのが見えてきました。現代の人間からすると、こういう言い方に慣れていないので理解しがたいです。ま、ゆっくり読んでいくと何かが見えてきます。

1. 「勾配のび」とは

まずは原文をみてみましょう。ほとんどが表でしめられています。

十九 こうばひのび
五分あたりになり付
こうはい細に塵劫記
にありといへとも板ノ
あやまりか七寸八寸
ノ所ちかひあるによ
り今又下愚かあらた
め申也塵劫記にハ系
忽まで候へとも其ち
りをこミ引して毛ま
て二書付る也

九寸五分	八寸五分	七寸五分	六寸五分	五寸五分	四寸五分	三寸五分	二寸五分	一寸五分	五分
三寸七分九り	三寸一分三り	二寸五分一り	一寸九分三り	一寸四分一り三も	九分六り	五分九り一毛	三分超七毛	一分一り二毛	一り六も
一尺	九寸	八寸	七寸	六寸	五寸	四寸	三寸	二寸	一寸
四寸一分四り二毛	三寸四分五り四も	二寸八分六毛	二寸二分	一寸六分六り二も	一寸一分九り	七分七り	四分四り三毛	一分九り八毛	四り六も

読下し文にします。

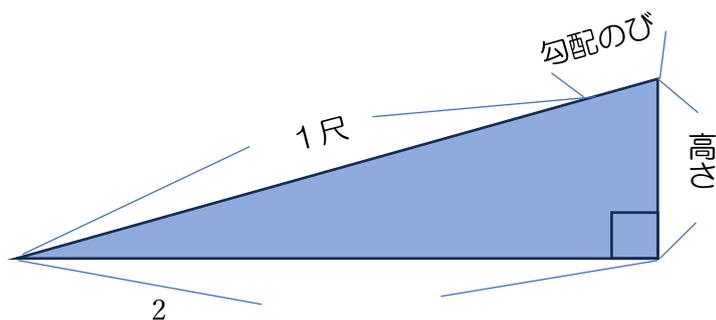
十九 勾配伸び五分あたりに割り付け勾配細かに塵劫記にありといえども、板のあやまりか七寸八寸の所違にあるにより、今また下愚があらため申す也。塵劫記には糸忽まで候えども、そのちりを込み引きして、毛までに書き付ける也。

これで少しは見えてきたような感じがします。

九寸五分	八寸五分	七寸五分	六寸五分	五寸五分	四寸五分	三寸五分	二寸五分	一寸五分	五分
三寸七分九厘	三寸一分三厘	二寸五分一厘	一寸九分三厘	一寸四分二厘三毛	九分六厘	五分九厘一毛	三分超七毛	一分一厘二毛	一厘六毛
一尺	九寸	八寸	七寸	六寸	五寸	四寸	三寸	二寸	一寸
四寸一分四厘二毛	三寸四分五厘四毛	二寸八分六毛	二寸二分	一寸六分六厘二毛	一寸一分九厘	七分七厘	四分四厘三毛	一分九厘八毛	四厘六毛

勾配ですので、坂道を想定しましょうか。

右図のような坂道を想定した時に、底辺を1尺としたとき、高さによって坂道の部分の長さが増えます。この増えた長さが、



ここでいう「勾配の伸
び」ではないかと考えて、前ページの表を見ると、まさにそんな感じですね。ここから
現代文で詳しく見ていきましょう。

1尺

2. 「勾配のび」を読み解くぞ！

勾配の伸びを5分ごとに書き記しました。勾配については細かに塵劫記にありますが、板のあやまりでしょうか7寸、8寸の所に間違いがあるので、下愚の私が改めます。

前ページの表の各上の段に書かれているのが、「5分」ごとの高さを記したところですね。各下の段が、高さをそれぞれ変えていったことによって、増えた坂道の長さ分が書かれています。この「勾配の伸び」については「塵劫記」にすでに書かれていますが、間違っているところがあるので、この新刊算法起で改めて記しますと書かれています。この「下愚」とは、謙譲語としての自分のことを指しています。

続いて、

塵劫記には糸や忽の単位まで書かれていますが、そのちり(糸・忽などの小さい単位)を込み引き(取捨選択…現代でいう「四捨五入」のようなこと)をして、毛の単位までにしました。

と。「糸」「忽」は「毛」よりさらに小さい単位です。1尺に対して

糸・・・100000分の1尺

忽・・・1000000分の1尺

ですので、このような極わずかな数は意識できない程ですので、これを「ちり」と呼んで「毛」の単位に組み込んだとしているのですね。

ここでは、前ページの表こそが大事で、実際の場面でこの表を使って勾配にかかわる計算をするんですね。